

JP50112652U

Publication Title:

No title available

Abstract:

Abstract not available for JP 50112652

(U)

Courtesy of <http://v3.espacenet.com>



印

請

実用新案登録願

昭和 年 月 日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称 芝織出装置における織出板

2. 考案者

フリガナ 住所 愛知県豊田市井上町8丁目116番地
 住 所 入口 東上 通 本
 フリガナ 氏名 彦 伸 進 伸

3. 実用新案登録出願人

フリガナ 住所 愛知県豊田市井上町8丁目116番地
 住 所 入口 東上 通 本
 フリガナ 氏名 豊化學工業株式會社
 代表者 彦 伸 進 伸

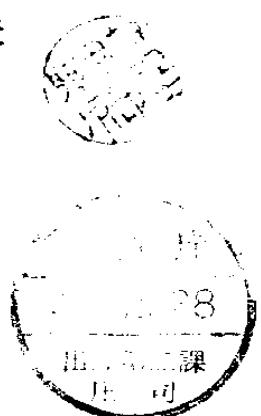
4. 代理人

住 所 名古屋市中村区井深町1番1号 本陣街220~222号室
 (5962) 電話 (452) 代表 5666番
 氏 名 弁理士 園 部 祐 夫

5. 添附書類の目録

(1) 明細書 1通 方式
 (2) 図面 1通 審査 小川
 (3) 委任状 1通
 (4) 出願審査請求書 1通

49 023728



明細書

1. 考案の名称 種芝縁出装置における縁出板

2. 實用新案登録請求の範囲

先端を種芝の縁出方向に向けた多數の引掛ピンを板上に植設し、これを、規格寸法に切断された多數の種芝を積重ねたマガジンの下口とその前方の間で往復移動させるように設けてなる種芝縁出装置における縁出板。

3. 考案の詳細な説明

この考案は規格寸法に切断された種芝をマガジンに積重ねて収容し、これを下方から一枚ずつ縁出すようにする縁出装置の縁出板に関するものである。

芝生造成のため、ほふく枝のからみ合つた芝を規格寸法に切断してはぎ取つた種芝を、造成地に

張りつける作業において、可搬式の種芝繰出装置により種芝を順次に繰出すようすれば、作業がはかどり、人力の節約にもなる。しかるに、種芝は柔軟であるから、通常の押出式繰出板を使用しても円滑な繰出しを期待できず、マガジンの下口で下方の一枚の種芝を繰出板の板面で受け、該板の前進によりその一枚を上に重つた種芝から分離して繰出すようしなければならない。然るに下方の一枚には、上方に積重なつた種芝の重量がかかっているから、摩擦によつて円滑な分離ができず、これが繰出板上でスリップし、或は繰出板上で歪曲して繰出を困難又は不能にする。

本考案はかかる欠点がないようにしたものであつて、その実施態様の一例を添付図面に従つて説明すれば次のとおりである。

図中 1 は縦出装置の支持枠体、2 は該枠体 1 上に取付けたマガジンであつて、これを仕切板 3 により仕切つて複数の小室 4 を縦出方向と直交する方向に並列に設け、その各小室に規格寸法に切断された種芝 5 を積重ねて納める。5 はマガジン 2 のすぐ前部に差渡して両端を支持枠体 1 上で支持した軸体であつて、これに各小室の前部に対応する適数ずつの逆止爪 6 を下向きに突出し、両端には支持枠体 1 に係合するストップバクを設ける。8 はマガジン 2 の各小室 4 の下口に、大略一枚の種芝 5 の間隔を置いて配置した縦出板であつて、その両側を支持枠体 1 の対応内面に設けた案内 9 により直線移動自由に支持する。この縦出板 8 は、前記下口に対応する支持面 10 の後部に、前記下口には接する高さとした受支面 11 を設け、該面

11の前縁に逆止爪6を受入れる欠部12を形成する。また、支持面10には先端を種芝2の搬出方向に向けた多數の引掛ピン13を複数する。

搬出板8は第3図のように支持面10を小室4の下口に合致させた位置と、第4図に示すようにその下口の前方、具体的に言えば逆止爪6より前方に突出する位置との間で往復移動を行わせる。

本考案の作用を説明するに、搬出板8の支持面10を各小室4の下口に合致させた第3図の後退位置では、その上に各小室4の最下位の種芝2が乗る。ここで搬出板8を前進位置に移動すると、支持面10に支持された種芝2が引掛ピン13により引掛けられて支持面10との間にスリップを生ずることなく搬出され、その先端縁が逆止爪6に突き当ると、これが軸体5と共に時計方向に回

転して逃げる。そして支持面10に続いて受支面11が各小室4の下口に進出するため、新たに最下位となる種芝2がその受支面11で支持されるに至り、練出板8が第4図のように前進範囲に達すると、練出された種芝2は逆止爪6より前方に進み、該爪6が戻り回転して欠部12内に入る。

ここで第5図のよう練出板8を後退しはじめると、練出された種芝2が逆止爪6の前面に突き当り、かつ支持面10の引掛ピン13から相対的に脱出して練出位置に残り、また受支面11により新たに最下位になつた種芝2が支持面10上を相対的に移動し、そのときには引掛ピン13がその種芝の下面を滑つて後退方向に移動するから、第3図と同じく第4図のように最後退位置になつた支持面に受止められて次の練出準備を終る。ま

たマガジン2の前部に縁出された種芝1は縁出板3から全く離れて所定の位置に放出される。

前記実施例では逆止爪6がなくてもよい。

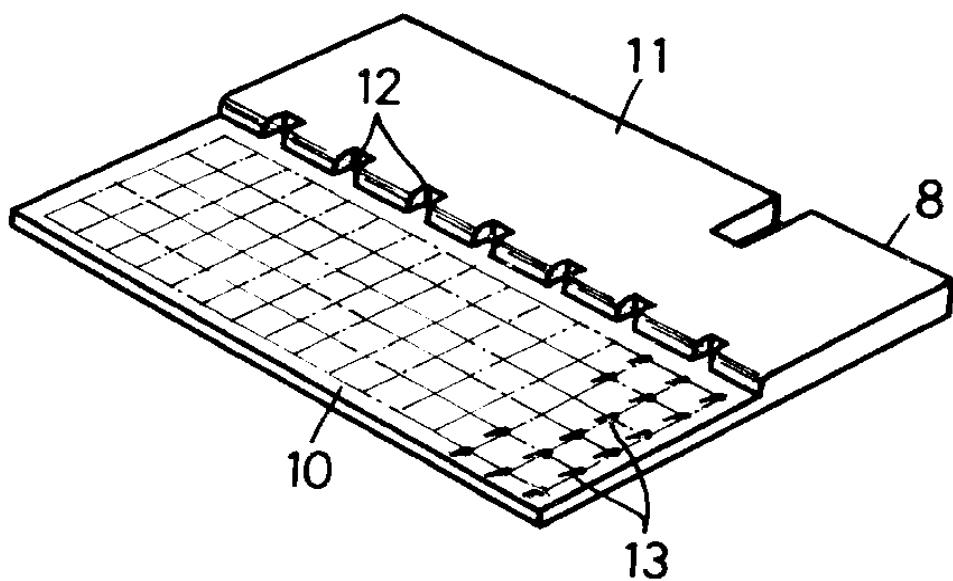
本考案は前記実施例の説明により明らかにした
ように、縁出板3に種芝1の縁出方向に向けた多數の
引掛ピンを植設することにより、種重ねられた種
芝の下方の一枚をスリップさせることなく正確に
縁出し得るすぐれた効果がある。

4. 図面の簡単な説明

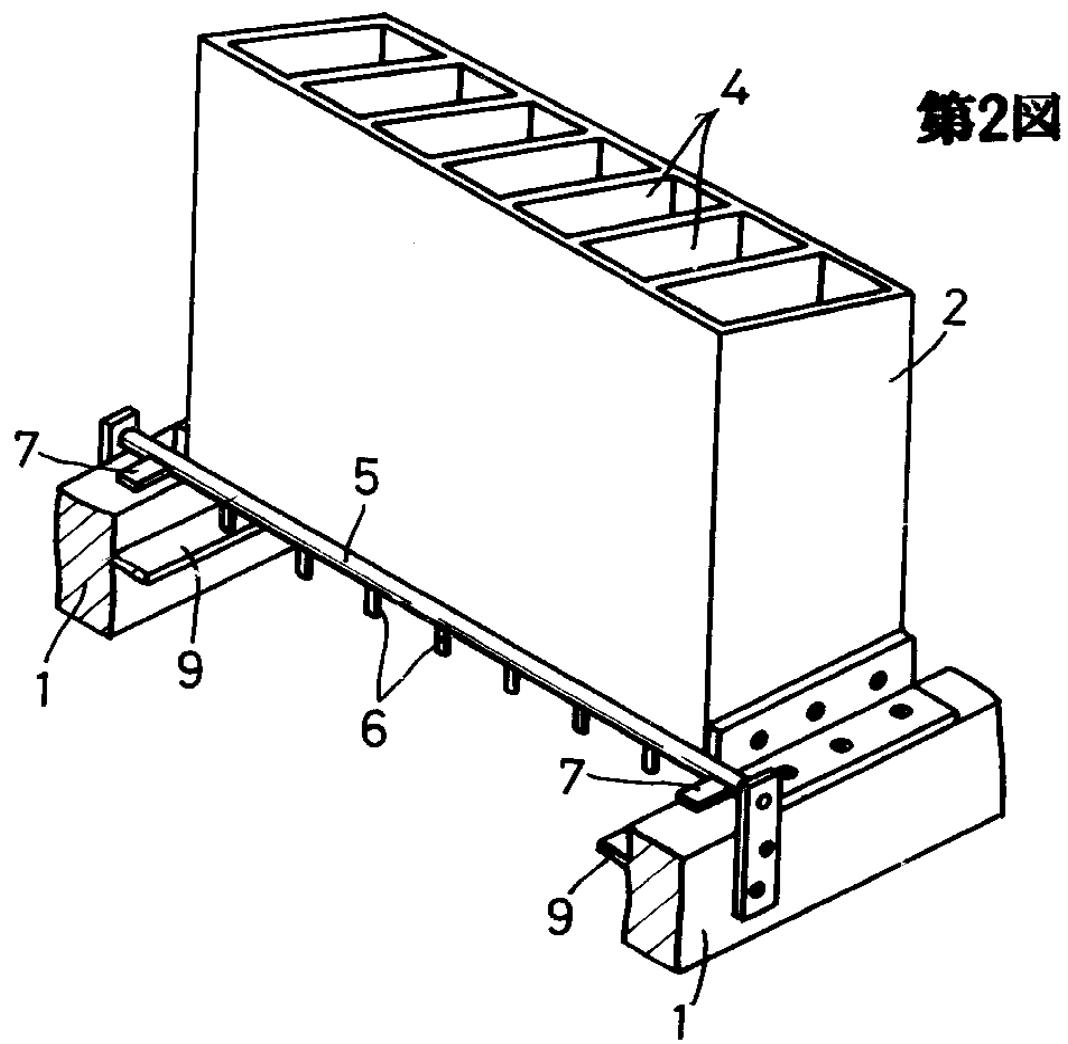
添付図面は本考案の実施態様例を示し、第1図
は縁出板の斜視図、第2図はマガジンと逆止爪の
斜視図、第3～6図は種芝の縁出作動を説明した
縦断側面図である。

1 → 種芝、2 → マガジン、3 → 縁出板、4 → 案
内、5 → 支持面、6 → 引掛ピン

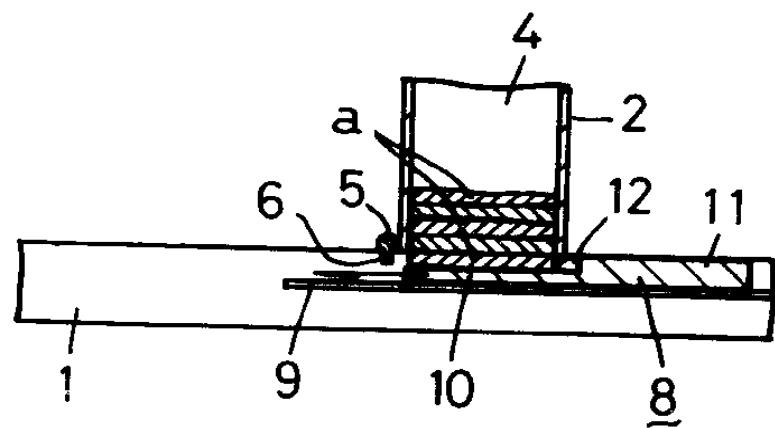
第1図



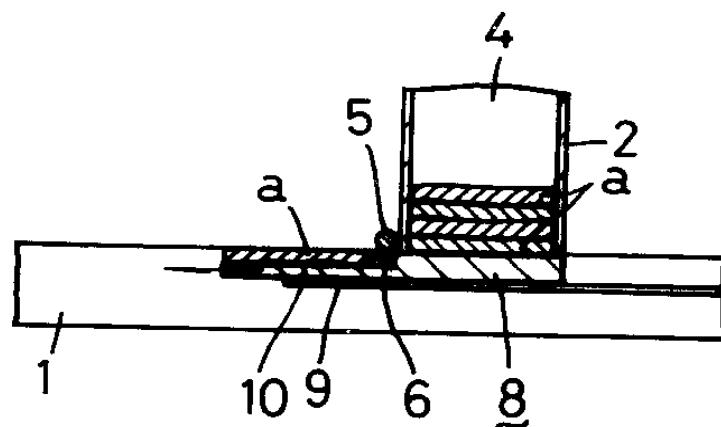
11 2652/3



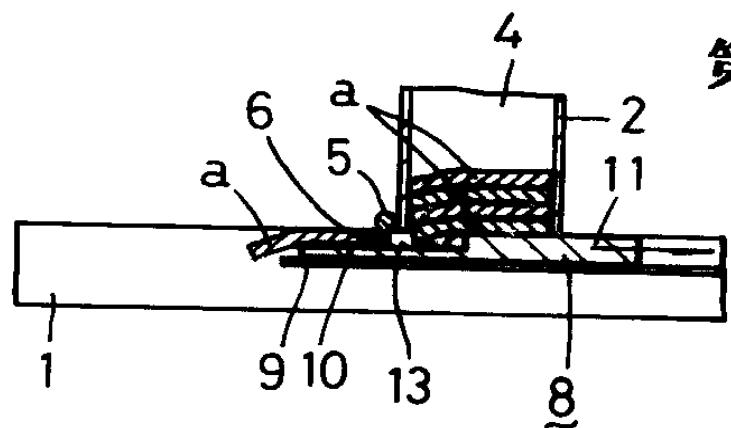
11 2652 2/3



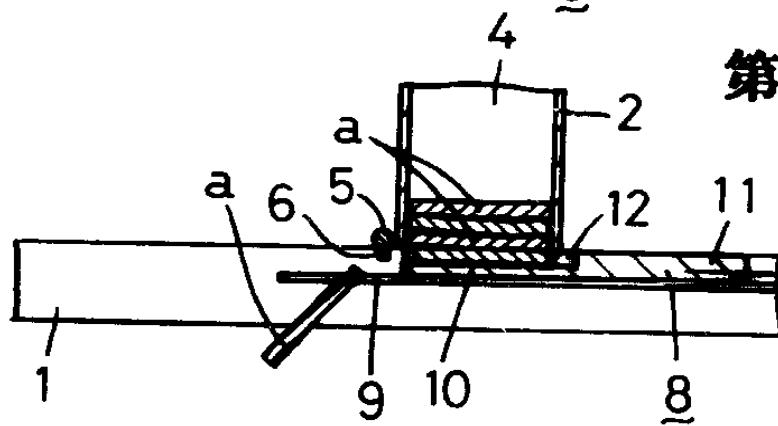
第3図



第4図



第5図



第6図